

すぐりのスグリハバチ（新発生）

令和元年6月上旬に、恵庭市の家庭菜園において、栽植されたすぐり（グースベリー）の葉を食害するハバチ幼虫が認められた。当該幼虫は老齢時の体長約10mm程度で、体色は淡緑色、淡緑色の頭部には黒褐色の斑紋が認められた。なお、同時期にすぐりの葉上に、体色が黒色で脚は淡褐色を呈する体長5mm程度のハバチ成虫が散見され、これらは当該幼虫と同一種の越冬世代成虫と推察された。当該菜園では数年前から同様のハバチ幼虫による被害を認めており、加害が進むと樹高70cm程度の被害株は葉が全て消失するような食害状況となっていた。加害幼虫は6月中旬には地表の枯葉や、一部は樹皮上に長さ5mm程度の褐色俵状の繭を形成した。この繭からは、10日間程度で成虫が羽化した。第2世代と思われる次世代の老齢幼虫は6月下旬に多数認められ、6月末から7月上旬に成虫が羽化した。このように、本種は年間数世代を経過することが確認された。

加害種は、道総研フェロー原秀穂博士により、スグリハバチ *Pristiphora ribisi* (Togashi) と同定された。本種は *Ribes* 属の野生種ヤブサンザシの葉を加害していた記録がある。既知の発生地は本州の青森県、山口県で、北海道からは初めての記録である。

（中央農試）



すぐりのスグリハバチ（左：葉を食害する幼虫、右：成虫）（北見農試 岩崎 原図）